

令和4年度第2回地域福祉専門部会 意見票のまとめ

参考資料4

(質問の内容が類似するものについてはまとめています)

(1)重層的支援体制整備事業の実施に向けた取り組みについて (参加支援事業及び地域づくり事業の検討)

番号	ご意見	区の考え方
1	福祉総合相談窓口の設置により、相談者が早期の段階で問題解決へとつながるとよい。 自ら相談できない方もいるのではないかと。こうした方へのアプローチをどのように行うのか。	福祉の総合相談窓口は、支援機能を持つ窓口として継続的なアウトリーチの実施により、潜在的な課題を把握し必要な支援へとつないでいくことを想定しています。
2	参加支援事業については、法令上はプランの作成(本人同意)が必要になる。しかし、実際の支援の場面では、本人の同意を得て、かつ、プラン作成に至る前に様々な「参加支援」を行っていくことの方が多いと思う。実績をどうとらえるか、という点にも関連するが、参加支援事業による支援例を考えた際は、プランを作成したケースだけとせず、できるだけ幅広くケースを捉えた方がよいのではないかと。	ご指摘のとおり、実際の支援の場面ではプランの作成に至る前に、様々な「参加に向けた支援」が行われています。それらの実績の捉え方については、今後検討してまいります。
3	地域づくり事業について、地域活動拠点の整備を取り上げているが、地域住民の身近な場所においてこそ地域活動拠点の機能が活かせると思う。気軽に立ち寄れる場所、何かあった時にすぐに相談できる場所、近所にあるほっとできる場所、という居場所・相談・活動機能を活かすには、小学校圏域(徒歩10~15分圏内)にあることが望ましい。距離が離れている場合、目的がないと足を運ばない。(相談に行こうと目的を明確に持って支援機関に行くまでには、いくつかのハードルがある。買い物ついでに寄るぐらいの距離感がちょうどよい。)他方で、中央区の状態を踏まえると、地域活動拠点という物理的な場所の確保が難しい面もある。オンラインでの集いの場、隅田川テラスでの集いなど、物理的な場所だけにこだわらない視点も大切かと思う。	地域の様々な居場所、地域活動が、地域づくり事業に該当すると捉えています。また、拠点までの物理的な距離が心理的なハードルとなる可能性は高く、このハードルを解消するためにも柔軟に居場所を捉え、様々な地域活動があることが望ましいと考えています。
4	事業説明をする際、個別の事業ごとの取り組みを説明する形になるのは仕方がない面があると思う。イメージ図にもあるように、相談支援、参加支援、地域づくり事業は一体的に実施されてこそ機能する。これらの事業が新たな「縦割り」を生じさせない工夫も必要ではないか。(イメージ図には、①から③につなぐ、とか、②から①への矢印、③から②への矢印、があっても良いように感じる。各事業は双方向で関連していることが分かるようなイメージ図の方が良いのではないかと。)	相談支援、参加支援、地域づくり事業を一体的に取り組んでいることが見てわかるよう、イメージ図は適宜変更してまいります。

(2)地域福祉ワークショップの実施状況と今後の取り組みについて

番号	ご意見	区の考え方
1	ワークショップの参加者動員について、 ・動員に対する告知方法をどうするか。今後検討が必要だと思う。 ・特に子育て世代・中高大学世代に対するデジタル活用の検討も必要となるかと思う。	SNSを活用した周知は既に行っているところではありますが、より幅広い年代の方にご参加いただけるよう、内容の見せ方を工夫してまいります。
2	若者のワークショップ動員例として、ある市では大学生への遠距離通学交通費補助を行っていて、その補助を受ける若者は自分の住む市の未来を考えるワークショップに参加するという仕組みがある。ワークショップの内容も広く市民に広報している。	若者が参加することで、意見交換の幅が広がり内容の厚みも増すと感じています。多くの方にご参加いただけるワークショップとなるよう、今後の参考にさせていただきます。

3	<p>今年度のワークショップに参加し、防災について話し合った。参加者はそれぞれ地域の中で地域住民のために努力していると感じた。それでもまだマンションの中では関心が少なく、もっと協力してくれる人を増やすためにも、広報活動も考えなければならない。</p>	<p>防災は一人が意識し取り組むだけでなく、周囲の人たちと共に考え取り組むことで、自分事として認識し考えが深まると考えています。一人でも多くの方に関心を持っていただくためには、広報活動の強化や参加のきっかけづくりなど、様々な工夫が考えられます。これらの積み重ねが地域のつながりづくり、地域福祉の推進につながるため、一体的に取り組んでいただけたらと思います。</p>
4	<p>若い世代の参加が課題だろう。</p>	<p>若い世代の方にも参加していただけるよう、日時やテーマの設定を検討してまいります。</p>
5	<p>参加者の一人は、「地域の町会長から災害時地域助けあい名簿や地域カルテをもらったが、どう活用すればよいかかわからないとの相談を受けた。渡すだけではなく、活用方法も伝える必要がある」との話をしていました。名簿やカルテの活用方法を周知する必要があるのではないか。</p>	<p>災害時地域たすけあい名簿については、民生・児童委員及び町会・自治会への配布時に取扱や活用方法について説明する予定です。 地域カルテについては、配布時に活用方法の周知を検討してまいります。</p>
6	<p>参加者がその場で出た意見などを共有できればグループワークとしては問題ないということだろうが、モヤモヤ感が残る。サポーターとして社会福祉協議会の職員もグループワークに入っていたが、もう少し発言があってもいいように感じた。毎回このグループワークが意見・感想の交換で終わるならば、フォローアップ会を開催するにしても工夫が必要かと思う。</p>	<p>社会福祉協議会の職員は、サポーターとして意見交換の進行補助を主な役割として参加しました。今後のサポーターの立ち位置や役割については、テーマに応じて変更も検討してまいります。 フォローアップ会の開催に向けては、参加者の横のつながり、課題解決に向けた実践の足がかりとなる内容を検討してまいります。</p>
7	<p>中高生向けワークショップの打ち出し方について、例えば前半は実際のボランティアに参加してもらい、後半はその内容についてワークショップを行い、課題解決手法を学ぶなどの組み立てはどうか。 ※昨今、大学進学は総合型選抜で受験する子も多いため、将来学びたい内容を考えるきっかけになれるようにして修了証などの発行もあると、参加につながるというのもあるのではないか。</p>	<p>ご意見を参考に、ワークショップの参加者に対しては修了証の作成を予定しています。</p>
8	<p>地域カルテを活用した地域福祉ワークショップを開催できないか。民生・児童委員、見守り協力員、第2層協議体、通いの場・ほがらかサロンのスタッフ、ふれあい福祉委員会・いきいき地域サロンのスタッフ、ファミリーサポートセンターの提供会員、虹のサービスの協力会員、防災区民組織、町会・自治会組織など、地域に関わる人たちを巻き込み、地域カルテを読み解く、など。</p>	<p>地域カルテ活用方法の周知も兼ね、そうした場の開催についても今後検討してまいります。</p>

9	<p>ワークショップに参加された方はすでに地域で活動されている方が多い、との指摘があったが、そういう意味では地域福祉活動への関心度がかなり高い方が参加されていたのだと思う。他方で、転入者が多い中央区の地域特性を考えると、そもそも地域福祉活動に関心を持つきっかけがない方、関心を持つ余裕のない方、そもそも無関心、という方もある程度いらっしゃる事が想定される。地域共生社会や包摂的な社会の実現という観点からは、いかに“我が事”として理解していただけるかがポイントだと思うので、専門部会で指摘されていたように、ワークショップを通していかにすそ野を広げられるかがポイントになるのではないかと。地域課題を抽出をする、課題解決に向けた意見交換を行うことも欠かせないが、さらに手前のところ（災害が発生したときのことを考えるとなんとなく顔見知りになっておくことが大切だ、ということに気がついてもらうこと、など）にも目を向けていく必要があるように思う。</p>	<p>地域福祉に少しでも関心を持っていただき、我が事として理解していただけるよう、地域福祉ワークショップのあり方を検討してまいります。</p>
10	<p>地域課題の解決に向けて地域住民が主体的に動き出すには、我が事として理解することが必要だと思う。「こんな課題があります、だから一緒に解決方法を考えましょう」と言っても、地域住民にとっては負担感を感じるだけではないか。我が事として理解するには時間がかかるので、成果を急がないという視点もあって良いのではないかと。（だからといって何もしなくてよいということではないので、継続的に意見交換の場を設けることは必要かと思う。）</p>	<p>我が事として地域課題をとらえるには時間が必要であり、すぐに結果は出ないと認識しています。引き続き、地域住民による主体的な活動へとつながるような地域福祉ワークショップを開催できるよう、取り組んでまいります。</p>

(3)令和5年度 地域カルテの更新について

番号	ご意見	区の考え方
1	<p>被保護率を記載してほしい。東京都民生児童委員連合会のHPには、都内各自治体の特徴の欄に高齢化率などと一緒に被保護率が掲載されている。</p>	<p>地域別の被保護率は区として公表しておらず、記載は見送らせていただきます。</p>

(4)その他

番号	ご意見	区の考え方
1	<p>今後も地域の見守りに取り組み、単身者とも顔の見える関係・地域になれたらと思う。コミュニケーションをすることで、孤立防止を目指したい。</p>	<p>地域住民同士の顔の見える関係、つながりづくりは、地域福祉推進に向けた最大のテーマであると考えています。</p>
2	<p>社会福祉協議会に関わるボランティアが、所属にとらわれずにボランティア交流の仕組みを考えることも必要ではないか。</p>	<p>社会福祉協議会では様々な住民参加型の事業を行っています。個々の事業がつながり、包括化することは社会福祉協議会が今後重層的支援体制整備事業に取り組む上で不可欠と考えています。そこへ向けての具体的な仕組み、仕掛けについてはオール社協で検討してまいります。</p>
3	<p>重層的支援体制整備事業の実施に当たっては、地域特性を踏まえ、既存の事業を活用しやすくすることがポイントだと感じる。中央区の地域生活課題がどんなところにあり、その解決のために重層的支援体制整備事業をこのように活用する、といった説明があると、より分かりやすくなるように感じる。</p>	<p>重層的支援体制整備事業の見せ方、説明方法については、ご意見を参考に検討してまいります。</p>